

医療機関・一般高校など福祉・就労関係機関以外からの紹介が顕著に増えてきています。障がい別では、知的障がい者が約半数を占めており、就労相談以外に、家族介護の問題や手帳取得に躊躇する等、訓練や就労に展開しないケースもあり、他の専門機関へ斡旋となることもあります。

一方で、支援学校・訓練校からの就職者は、今すぐに必要な支援や困りごとがなく、“何かあった時のための保険”のような登録依頼が大半を占めています。そのため、相談の必要性やタイミングを理解できていない方も多くいます。中には、職務内容・勤務条件と障がい特性や職業適性がミスマッチな方等もおられ、わずか半年で退職となったケースもあります。

センターでは、積極的に地域連携も行っていますが、一方で課題もありました。

1つ目は、自立支援協議会委員として、担当圏域5区(港区、福島区、大正区、西区、此花区)の協議会に参加しました。サービス利用申請後、支給決定まで2~3ヶ月かかることが標準的な期間となり、離職後の再訓練開始など支給決定にかかる時間が長期化し、労働観の低下対策などが今後の課題となっています。

2つ目は、支援学校の相談員として2年生・3年生の生徒・保護者対象の相談会に参加しました。訓練校と就労移行支援事業所の違いについて尋ねられるなど、すでに得た情報の整理を求められる機会が増えていきます。教育委員会からは『入校審査に漏れた支援学校希望者が一般高校を選ぶ逆転現象が起きている』との情報もあり、福祉サービスを知っていただく潜在支援対象者は多数いると考えられます。

3つ目は、大阪市西部圏域内移行支援事業所連絡会(通称:ステップリンク)を継続して開催しています。市内の就労移行支援事業所が100ヶ所に届く勢いとなるなか、サービスを伝える媒体は、直近の活動や訓練などの最新情報を含むネット情報が勢いを増しています。昼食無料といったメニューを展開している新規事業所もあります。市内の他圏域同センターでは、説明会等イベントを継続していますが、集客数が減少傾向にあり、福祉サービス利用に結びつく結果となった事例は極めて少ない状況です。

### 【福島育成園】

福島育成園では、日中は生活介護事業(定員100名)、夜間支援は施設入所支援(定員40名)の障害者支援施設として事業を実施しました。

平成27年度は法人理念の「障がいのある人が安

心して 心豊かに 過ごせるように」の実現を目指して、行動指針を遵守し、エリア全体の事業運営を行ってきました。利用者のみなさんが安全を大前提として、安心して、楽しく、快適に、自分らしく過ごし、暮らしていけるように、建物の修繕や、清掃の徹底、支援内容の検討等を継続して実施しました。

今年度は第2期改修工事として、平成26年度のエアコンの全面更新と居室照明のLED化、建物の屋上防水の施行に引き続き、外壁の補修工事と居室及び共用部のクロスの張替え、共用部の照明のLED化、居室部分の畳の入れ替えと一部フローリング化の工事及び、カーテンの新調を行い、清潔で快適な環境整備を進めました。

また、給食提供については、より良い給食提供のあり方を目指して、複数業者によるプロポーザル方式での業者選定を行い、平成28年度からの給食業務の業務委託契約を結びなおしました。

平成11年4月の開所以来17年の時間経過により、福島育成園の利用者の最近の傾向として、加齢に伴う身体機能の低下など、老化と考えられる症状の人が、益々増えてきました。今後も引き続き、加齢や老いにも対応していけるような工夫と、準備を行い、利用者の変化に柔軟に対応していけるように、事業、施設運営に取り組むことが課題となっています。

また、平成7年の阪神淡路大震災、平成23年の東日本大震災の教訓を受け、大阪市危機管理室や福島区役所市民協働課、福島区地域自立支援協議会等と連携をしながら、施設及び福島区域の障がいのある方を含む、要援護者の防災、避難対策の検討および準備を開始しました。社会福祉法人として、また、親の会の運営する施設として、有事の際には支援が必要な人に対して、必要な支援が提供できるように、常々心掛けながら運営にあたりました。

### 【ビーンズ】

ビーンズでは利用者16名に対し、福島区内の3住居でサービス提供を行っています。

特に利用者の年齢が上がっている状況もあり、利用者も27歳から68歳まで幅広く、平均年齢としては52.0歳です。このことからビーンズにおいても利用者の高齢化が課題となってきています。そのような中、利用者1名が介護保険で要支援2の認定を受けたことにより、特定介護予防福祉用具購入費の支給、介護予防福祉用具貸与を受けることが可能になり、ホームの中でより安全に生活を送れるようになりました。